

井の頭池のカイツブリは、オオクチバスなどの外来魚が生息していた時期には繁殖の確認が途絶えたが、1回目のかいぼり後の2014年以降、食物となる魚やエビが回復したことで再び繁殖するようになった。つがい数も増加し、2020年の繁殖シーズンには、前年と同数の7つがいが確認された。

かいぼり後は、カイツブリの営巣環境も変化している。従来は水面に垂れ下がった木の枝に枯れ葉などを絡ませて浮巣を造るつがい(枝先タイプ)が多かった。

カイツブリの営巣環境に変化が！

ツツイトモ上に造られたカイツブリの巣

井の頭池モニタリング報告 2020

水鳥たちの新しい生活

井の頭池の自然環境を把握する一環で水鳥のモニタリング調査が毎月行われている。水鳥の生息状況は、池の環境や他の生物との関係、種ごとの広域的な動向などに影響される。今号では、最近生活に変化が見られた水鳥のトピックスを紹介する。

井の頭池のバンは、浅場整備の取組によってできたヒメガマや湿生植物の生育地を中心に観察されている。草の茂みで食物を探しているのを見つけないが、静かに観察していると茂みから出てくることもある。



仲むつまじく泳ぐバン (2020年4月)



目シの葉をついばむバン (2020年12月)

冬に定番化したバン

水草の多い池や湿地に生息するバンは、都内での生息地が少なくなっている。東京都レッドリストでは絶滅危惧II類に選定されている。

井の頭池では、近年は春期に短期間確認される程度であったが、2019年は冬期に4羽が滞在した。春に繁殖するのではとの期待もあったが、2020年の初夏に姿が見えなくなった。しかし、今秋には再び2羽が渡来し、越冬している。

井の頭池のバンは、浅



枝先タイプの巣



抽水植物の茂みの巣

ここ数年、岸辺に整備された浅場にヒメガマが生息するようになると、その茂みにも巣を造るようになった。さらに2019年、ツツイトモの生育範囲が池の全面に広がる、1組のつがいツツイトモを土台にして開けた水面に巣を造った。今シーズンはこのタイプの巣が8例に増加した。枝先タイプの巣は、水生植物が少ない水域に見られることが多い。このタイプは強風や水位変化による影響を受けやすく、枝が揺れると壊れたり漂流したりすることがあった。水生植物に造られた巣は、こうしたアクシデントが起こりにくい。井の頭池に多様な水生植物が生息するようになり、カイツブリにとって好適な営巣環境が整いつつある。

表. カイツブリの営巣環境タイプごとの営巣数 (2016年~2020年)

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
枝先タイプ	10	14	3	12	9
抽水植物の茂み (冠水した浮島)		1	1	3	1
抽水植物の茂み (浅場等)			2	5	3
開放水面 (沈水植物)				1	8
栈橋					1
合計	10個	15個	6個	21個	22個

秋冬の水鳥リーフレット 配布中!



よく見られる水辺の鳥 16種が掲載されています。園内看板に備え付けのチラシ入れにあるので散策の際にはぜひご活用ください。

カワウが初営巣

カワウは1970年代には繁殖地が全国で3箇所へ減少したが、その後は回復に向かい、現在では東京周辺にも繁殖地が点在するようになってきている。井の頭池でも、かいぼりによってカワウの食物となる魚類が回復したこともあり、目にする機会が増えている。

井の頭池では春から夏に数羽が生息し、秋から冬は10羽ほどに増えるという季節パターンが見られていた。こうした中、2020年春に井の頭池で初めてカワウの繁殖が確認された。園路の直上の木に営巣したので、公園ではフンの落下に注意を呼びかける掲示を行った。7月までに3羽のヒナが巣立った。

カワウは捕食しやすいサイズの魚類を潜水して捕らえる。井の頭池ではギンブナやナマズの若魚を捕る様子がよく観察される。アメリカザリガニも捕食されている。

今年もカワウの渡来数が増える時期を迎えた。カワウがよくとまる木の下には、仮設のフン除けが設置された。



巣の上のカワウの親子 (2020年5月)



カワウのフン除けのネット

Topics

井の頭池の 茶色い水の正体



2020年10月、井の頭池の水が濃い茶色に変わり、透明度が低下しました。雨が少ない時期だったので、泥水の流入による濁りではなさそうです。これまでになかった水の色を見て心配する声が公園にも寄せられました。

この茶色い水の原因を探ると、植物プランクトンの珪藻類の増殖によるものでした。調査に協力した専門家によると、この珪藻は水中にある構造物などに付着する種類で、今回のように水の色を変えるほど、水中に浮遊した状態で群生するのは稀だといえます。

秋からの少雨のためか、12月まで池の水は濃い茶色の状態が続いていましたが、1月に入り、透明度が戻ってきました。

いけいけ! かいぼり隊

イケメン イケガール
～池男&池女、来園者をガイドするの巻～

新型コロナウイルスの影響で休止していた「井の頭池ちよこつとウォッチング」は、10月から感染症対策をとりながら再開した。11月は「エビ・カニ」をテーマに開催した。アメリカザリガニ防除用のカゴを引き揚げ、入っていた生きものをウォッチング。今回の目玉のひとつは又カエビだ。都内では比較的珍しく、かつては井の頭池での確認も少なかったが、3回目のかいぼり後に急増し、今期はカゴワナでもっともよく捕れる生物になっている。

今回のもうひとつの目玉、モクズガニも登場した。初めて見る大きなカニに参加者も大喜びだ。「以前は年に数回しか見られなかったものが、今年の秋は毎週のように見られています。若ガニも見つかりました。」かいぼり隊員がうれしそうに解説する。

普段から池の変化を肌身で感じているかいぼり隊にとって、参加者との直接のコミュニケーションは活動を継続する上での励みにもなっている。



参加者に解説をするかいぼり隊員 (右)



モクズガニ